

<日本語訳> South China Morning Post 社の許可を得て、当社において翻訳し、掲載しております。無断で転載・複写することを禁じます。

触媒技術開発のリーディングカンパニー「エヌ・イー ケムキャット」、工業界の未来を拓く

日本国内最大級の触媒メーカーであるエヌ・イーケムキャット株式会社は、先駆的触媒技術で工業界の未来を切り拓く。創業 57 年を迎える貴金属触媒メーカーである同社は、固有の化学技術と質の高い製品・技術を通じて持続可能な社会を実現すべく事業成長を図っている。既存の化学触媒、自動車排気ガス浄化、貴金属回収精製などの事業領域を拡大すると同時に、製品やサービスの多角化を進める。

エヌ・イー ケムキャットは、「ビジョン 2030」戦略の下、環境保護を世界的な規模で支えることで、触媒の新たな価値を提供しようとしている。各国政府や自動車メーカー、業界関係者と連携し、透明性の高い、健全な経営を確保した上で、国連開発計画（UNDP）の持続可能な開発目標（SDGs）に示される社会的課題、ビジネス上の課題に取り組む。また効率的な資産配分と無駄のない財務プロセスを構築し、環境・社会・ガバナンス（ESG）を考慮した投資原則を遵守する。

2030 年までにコーポレートトランスフォーメーション（CX）を完了するため、現在、事業開発体制の再構築、社内バリューチェーンの最適化、デジタルトランスフォーメーション（DX）技術の活用推進など、16 のキードライバーを定め、取り組みを進めている。

世界的にクリーンな次世代の代替エネルギー源の模索が続く中、自動車産業では、燃料電池に大きな期待が寄せられている。同社は、カーボンとグラファイト（黒鉛）製造のリーディングカンパニーである東洋炭素と共同で、他社に先んじて、画期的なカーボン新製品「CNovel（クノーベル）®」を用いた高機能触媒開発に取り組んできた。東洋炭素の多孔質炭素粉末材料が、同社の燃料電池向けの電極触媒と白金系化学触媒に使用されている。特徴的な細孔構造を有するクノーベルは、燃料電池システムの触媒高性能化、長寿命化、低コスト化に寄与する。今後の需要拡大を見据え、同社は、引き続き東洋炭素と連携しながら、クノーベルを使用した燃料電池用触媒の更なる改良と供給拡大を図っていく。

「バリューチェーンを統合したことで、化学触媒の最新技術を日本市場と中国市場に導入する準備が整った。燃料電池は、当社の最重点応用分野だ。」と代表取締役社長の櫛田祭氏は述べる。

中国政府が燃料電池技術を商用車に導入する意向を示していることを受け、中国本土における事業機会に関して、同社は肯定的に捉えている。

また同社は、グローバル企業の BASF の支援を受け、社会を支え、高効率エネルギーを創出し、クリーンな環境づくりに貢献する化学の無限の可能性を追求する。

櫛田氏は次のように語る。「当社は、イノベーションと最新の応用分野に注力している。当社の独自技術は日本国内のみならず、アジアや全世界にも提供されている。今後発生するさまざまな問題を解決し、製造部門にさらに多くのソリューションを提供できるよう人材の育成に努める。」

以上